



農業大学の構内

Q 農業大学の跡地活用について

A 水土里の交流圏の構築を目指す

内野 嘉広 議員

質問 農業大学校移転に伴う跡地活用について。

- 一 現時点の進捗状況は。
- 二 市民からの意見等は。
- 三 今後の市の考え方は。

答弁一（市長） 戦略的環境影響評価の結果や市民、市の意見を踏まえた基本構想のまとめが震災の影響で遅れている。今後も県市間での調整が必要。

二 市民の意見は非常に重要である。これまでにいただいた意見は、どれもこの地域に対する期待の大きさを実感させるものであり、今後も、市民とともに、実りある跡地活用となるよう進めていく。

三 第5次鶴ヶ島市総合計画で掲げた市の将来像の一つである「明日につながる活力のまち」を具現化するプロジェクトが水土里の交

流圏の構築である。この取り組みの一つとして、農業大学校移転後の跡地に、企業誘致を行い、市内に就労の場を確保していく。同時に、人が集うことで生まれるにぎわいと、周辺に広がる農地の活用を連動させ、第6次産業をモデルに、新しい農業の在り方も示していく。震災の影響もあるが、着実に進めていく。

◎その他の質問

- 一 地の利を生かした日帰り観光
- 二 平成23年度の市民体育祭

Q

全国瞬時警報システムの運用

A

全域聴取可能となる対策を検討

杉田 恭之 議員

質問 防災行政無線の一部難聴地域について。

- 一 難聴地域を把握されているか。
- 二 難聴地域の解消方法は。
- 三 全地域が聴取可能になる時期は。

答弁一（市長） 防災行政無線は昭和60年に整備し、平成16年度の



防災行政無線

設備更新を経て現在に至っており、数は58基である。

防災行政無線は、屋外で聞くことを前提として設計している。現在聞きづらい地域があることは承知しているが、地域の特定はできていない。

二 難聴の原因解明と地域を特定

したうえで、改善策を進め、難聴地域の解消に取り組んでいきたい。また個別受信機や災害用ラジオといった防災行政無線を補完する機能の導入も研究していく。

三 現在、難聴の原因解明と難聴地域の特定はできていない。そのため、具体的な対処方法等も決まっておらず、全域が聴取可能となる時期について言及できない。

難聴の原因解明と難聴地域の特定など、難聴の解決策につながる全自治会への調査を一刻も早く進めていきたい。

◎その他の質問 本市の一般住宅の耐震診断補助金利用について